

## 記憶を呼び覚ますアナログ・ディスク再生

かつて、身の周りのラジオ放送もレコードもテープデッキも全てアナログの世界でした。

ラジオ放送（AM）は音の帯域は狭かったかもしれませんが、とにかくアナログの世界でした。

FM 放送が始まり、音楽鑑賞の環境は随分よくなりました。いずれにせよアナログ放送でした。

1980 年頃、ソニーとフィリップスが音楽 CD のフォーマットを発表し、紆余曲折はありましたが、時代はデジタル音源時代へ突入します。

2000 年までにはパソコンが一般に普及しました。

現在の「PC オーディオ」は音質を高めるために高精細なデジタルデータを利用する方向ですが、それではせつかくのデジタルの世界の優位性が減少してしまいます。データ量が増えて扱いにくくなるからです。

一般的に言えば、「扱い易さ」がデジタル・ワールドの基本的なメリットではないかと考えられます。

もし「あの時代の音楽」をお聴きになるのであれば、音楽 CD から一步進めてアナログ・ディスクで聴かれたら如何でしょうか。

蘇るサウンドは CD のサウンドと必ず違うと思います。

記憶にアナログ・サウンドが刻み込まれているからです。

アナログ再生はデジタル再生に比べてたしかに面倒です。

しかし、五感を働かせ、注意深く指先を動かすことは決して無駄なことではないと思われ  
ます。

何かしら「ゆったり感」がアナログ再生には感じられます。かつての高度成長期、皆それぞれ忙しかったはずですが、しかし今と違うなと思うのは、あの頃は忙しい中にもある種の余裕があったことです。

今のようにギリギリまで無駄を削り取ってしまうと、一步間違えれば「アウト」ということにもなりかねません。

アナログ・ディスクは記憶を呼び覚ます水先案内人です。